

# 林業安全コラム

「つみとろう危険の芽  
トップの決意 みんなの努力」  
～「平成7年度全国安全週間スローガン」～

○ 7月1日～7月7日は全国安全週間です。

今年度のスローガン「**危険見つけてみんなで改善 意識高めて安全職場**」

全国安全週間の実施については、前月の林業安全コラムでお知らせしたところです。安全週間中に安全大会や安全パトロールによる職場の総点検の実施、安全旗の掲揚、標語の掲示、緊急時の措置に係る必要な訓練の実施など職場一丸となった取組が実施されるのですが、「平成27年度全国安全週間実施要綱」の中で林業の労働災害防止対策については以下の事項について提唱されております。

- ・ 車両系木材伐出機械等の検査・点検整備及び安全な作業方法の徹底
- ・ 間伐作業での安全対策の徹底
- ・ 安全な手順に基づく「かかり木」処理の徹底

この他、業種横断的な労働災害防止対策として、STOP! 転倒災害プロジェクト2015、交通労働災害防止対策、熱中症予防対策等への取組が提唱されております。

また、本年も既に16件(6月22日現在)の死亡災害の報告が該当県から寄せられており、災害多発の傾向が見られます。伐木造材作業における災害が多く、類似災害の発生も見られることから、安全週間期間中に上記の取組と合わせて、各作業において禁止された事項や基本動作などについて職場全体で再確認していただくようご協力をお願いします。

○ 熱中症対策 (7月は「熱中症予防強化月間」です)

熱中症は、高温多湿な環境下で、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温調整機能がうまく動かないことにより、筋肉痛や大量の発汗、吐き気や倦怠感、意識障害などが起こります。熱中症の予防には「水分補給」と「暑さを避けること」が大切です。

厚生労働省では平成22年から平成26年の「職場における熱中症による死傷災害の発生状況」を5月に公表しました。この5年間で全業種の熱中症による死傷者数は2,471人(うち死亡者数128人)となっています。業種の中でも建設業と製造業が多く発生し、全体の5割を占めています。林業での死傷者数は31人(うち死亡者数は6人)となっており、①送電線の直下の雑木伐採作業中熱中症にかかったもの②下刈り作業を行っている熱中症に被災した事例が報告されています。また、月別発生状況では7月～8月に全体の9割が発生し、時間帯別では14時台から16時台に多く発生していますが、午前中に発生しているケースや、日中の作業終了後に帰宅してから体調が悪化して病院へ搬送されるケースも散見されるので、時間帯に関係なく気温や湿度が高い時などは十分注意するようお願いします。

熱中症に関する情報については、インターネットからいろいろな情報を得ることができます。以下にその一例を記載しておりますので、今後の熱中症予防対策として是非ご活用下さい。特に日本気象協会HPや環境省HPでは、日本各地の熱中症情報が天気図のように閲覧でき、「危険」「嚴重警戒」「警戒」といった情報を得ることができます。是非ご覧下さい。

○ 中災防HP → <http://www.jaish.gr.jp/information/nettyu.html#siryo>

(熱中症に関する各種情報や災害事例など)

○ 日本気象協会HP → <http://www.tenki.jp/heatstroke/>

(全国各地のWBGT値※を簡単に閲覧)

○ 環境省HP → <http://www.wbgt.env.go.jp/wbgt.php>

(熱中症予防サイト、日本各地の熱中症情報も閲覧できます)

※WBGT値：人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい①湿度、②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標です。

林業労働対策室  
労働安全衛生班